

## ● 制作

# 山水結縁

## —大子町里山風景における結び目空間の提案—

永井 奎吾

園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム (主指導教員: 霜田 亮祐)

NAGAI Keigo

### 1. 研究の背景と目的

茨城県北部の山間地域に位置する大子町は、久慈川や八溝山地に象徴される豊かな自然景観や観光資源を有している。しかしながら、人口減少や耕作放棄地の増加、森林の荒廃といった課題に直面しており、地域全体の活力低下が深刻な問題となっている。日本の里山文化は、自然の恩恵を日常生活に取り入れるだけでなく、農作業や森林管理、祭りなどの共同作業を通じて人々のつながりを深め、助け合いながら暮らす特徴を持つ。このような文化的背景を基盤に、魅力ある資源の維持管理と適正利用を進めることが地域の活力を底上げすると考える。

前述のように、大子町の山間部では、人口減少や耕作放棄地の増加、森林の荒廃といった課題により、地域全体の活力低下が深刻化している。一方で、「常陸国ロングトレイル」の整備により、魅力ある地域資源の活用が進展している。しかし、現状のトレイルは、景勝地や歴史的遺構といった点を線的に結ぶ形態であり、空間利用が断片的である。そこで、本研究では、山間地域の資源を有機的に結び付ける維持管理と利用のプロジェクトを提案し、面的な空間利用を実現することで、新たな観光、教育、環境保全の可能性を探る。

### 2. 研究対象地

研究対象地は、茨城県久慈郡大子町南部の下津原地区。大子町は茨城県の北西部に位置し、久慈川が町の中央を流れる山間地域である。河岸段丘や谷地が広がり、それらは農地として活用されているほか、周囲の山地は林業資源として利用されている。また、古くからの集落が点在しており、地域の人々が自然と共存しながら暮らしてきた里山文化が色濃く残っている。

設計対象地は、鷲の巣山と久慈川河川敷とする。鷲の巣山は標高380mの低山で、クヌギやコナラ、イロハモミジ、ケヤキといった落葉広葉樹を主体とする植生が広がる。「常陸国ロングトレイル」の一部として整備されており、初心者でも利用しやすい登山道が特徴である。一方、北側斜面にはスギの植林地があり、林業が営まれている。久慈川河川敷は、川の堆積斜面に形成された平地であり、集落やキャンプ場が位置する。キャンプ場は地域住民や観光客が自然を楽しむ場として活用されており、山を背景に河川の景観と相まって豊

かな空間を提供している。このように、鷲の巣山と久慈川河川敷は、自然環境と人々の活動が交差する空間として設計する場として魅力的である。

### 3. 調査と分析

現地調査から以下の3つが課題として挙げられる。

- ① 回遊性の低さと展望地の整備不足による森林景観の魅力低下
- ② 里山の文化体験の場が限られていること
- ③ 急峻な地形

### 4. 提案とデザイン

結び目となる拠点として、水郡線上小川駅と袋田駅の間地点に新駅となる無人駅を計画する。また、常陸国ロングトレイルの一部である鷲ノ巣山登山道と結ばれる新規のトレイルを計画する。

#### (1) 新駅の計画

鷲ノ巣山東斜面から久慈川全体が一つの駅として、活動の拠点になることを目指す。また、歩きやすさと治水両方の側面からデザインを検討する。今回は、石積みの飛び石と中洲による流量のコントロールを試みる。

#### (2) 落葉広葉樹トレイル計画

新駅から鷲ノ巣山山頂に向かうトレイルをデザインする。歩きやすいトレイルを目指すとともに、展望地の計画と放棄されたスギなどの針葉樹の樹種転換による明るい魅力ある森に変えていく。

#### (3) 針葉樹トレイルの計画

鷲ノ巣山の北側斜面の植林エリアにトレイルを延長する。鷲ノ巣山登頂後の休息エリアと合わせて、林業や環境教育に興味関心、実践できる空間とにしていく。

### 引用文献

- ・大子町過疎地域持続的発展計画 (令和3年度～令和7年度), 茨城県大子町

